

撤兵と北条方の追撃

信玄は永禄12年10月4日の朝“鎌倉鶴岡八幡へ参詣”と偽りの報を流しながら小田原を発った。しかし、平塚まで来た武田方は進路を北に変え、甲州への道を取り、その夜は田村、大神のあたりに宿営した。

この情報を得た北条氏康は、敵は必ず三増峠を越えるものと判断、子の氏照・氏邦、女婿綱成ほか関東各地の将兵らおよそ2万を三増へと向寄せた。

舞台は三増峠へ

明けて10月5日、武田方は田村、大神のあたりを出発。北条勢の動向を知った信玄は、

“氏康父子がきてさえ自分には勝てないのに、家中の者どもだけならば自分が勝利する”と確信した。

厚木を過ぎ反田あたりで中津川を渡り金田の牛窪坂を登り依知原へ出た武田方は、道を北西にとり在郷の土豪と小ぜり合いをしながらも三増へと進んだ。

一方氏照ら北条方の軍勢は、武田方より先に着いた三増の地ではあったが、いったん半原台地に退き態勢を整え、その上で武田方と対陣しようとした。

この間に武田方は、三増の高地に陣を敷き、旗を立てた。



合戦の舞台となった三増峠の登り口



木太刀も奉献されている浅利明神



合戦場の一部(現在は茶畑になっている)



浅利明神内にある曾雌知義が建立した浅利信種の墓碑